

## マネージメント情報 2019年 3月

### アメリカ 2019

3年ぶりくらいのアメリカ訪問でした。前回のM情報にも書きましたが、アメリカの酪農業界は現在きわめて厳しい環境にありました。そんななかでも、前向きに営農されている姿が印象的でした。経営環境だけでなく、気候もかつてない厳寒の中での訪問でした。

#### ー 平均乳量が57kgの農場では

その中で、訪問した多くの農場の平均乳量がまた一ランク上昇していることに気がつきました。以前に農場訪問をしたときに、それらの酪農場は一応に日平均乳量は90lb以上という答えが返ってきました。それは、農場にとって誇らしい数値だからです。90lbといえば、41kg/日です。しかし、今回久しぶりに訪問したアメリカの酪農場は、ほとんどの酪農場が日量100lb越えと言っていました。100lbは45kg以上になります。以下の写真の農場は日平均126lb=57kgということです。多少、数値に様々なバイアスがかかっているとは思いますが、すごい数字に間違いはないです。遺伝改良、環境、などさまざまな改善がされての結果なのでしょう。

#### ー 訪問したすべての農場でブラウンミドリブ (BMR) のデントコーンを栽培・給餌

この農場も含め、今回訪問したこれらの高泌乳牛群では、すべての農場でBMR (ブラウンミドリブ) というデントコーンサイレージをふんだんに給与していました。この57kg/日牛群も写真のように、BMR主体のTMRでした。ブラウン (茶色)、ミド (真ん中)、リブ (肋骨: この場合は刃の葉脈の中心で) で、葉っぱの中ほどの肋 (葉脈) が茶色で、そのままブラウンミドリブ (BMR) と呼びます。この品種はセンイの消化率が非常に高いことで知られています。すなわちBMRはたくさん食べられて、乳になり、糞になりにくい餌ということです。



写真1

－ BMR 主体の TMR、1 日一回給餌、21 回の餌押し

この BMR は突然変異品種で、決して遺伝子操作作物ではありません。米国でこれほど普及し、その高泌乳牛群を支えている BMR デントコーンがなぜ日本に普及できないのかよくわかりません。日本でもソルガムの BMR はマーケットに出ているのに、デントコーンに関しては何がその普及を阻害しているのでしょうか？

－ 1 日 1 回給餌と 21 回餌押し

この農場では TMR を 1 日 1 回給餌で平均乳量 57kg/日を支えています。写真のように大量の餌を一回で給餌しています。しかしながら、餌押しは 1 日に 21 回行うということです。いかに餌押しが大事なマネジメントなのかがわかります。翻って日本ではどうでしょうか？ 一日何回の餌押しがされているのでしょうか？ ましてや、餌押しロボットを入れている農場でさえどうでしょうか？ せっかくロボットをいれているのですから、1 日 20 回餌押しを設定させてもなんの問題もないのではないのでしょうか？ それができるのがロボットの最大の利益になるはずですが・・・ロボットにもっと仕事させましょう。

－ 暑熱時の種付けは真夜中 12 時に行う

換気は、クロスベンチレーションで外気が $-30^{\circ}\text{C}$ 以下のこの日もしっかりと作動していますが、さすがに、冷たい空気によって牛舎内はこのように曇ってしまっていました。この牧場では暑熱期には、牛の体温が下がる真夜中に授精業務を行うそうです。その言葉に、一同文字通り、完全に凍り付きました。当社でもこれを取り入れましょうか？



写真 2

この若い農場主は、高泌乳にかんして小さなことをすべてミスのないように積み上げていくだけのことで、特別なことを行っているわけではないとおっしゃっていました。その話して姿勢にもまじめさと気迫を感じました。(若い頃の k.I さんを思い出しました)

## 乳頭自動洗浄機の利用と実際

乳頭を自動洗浄してくれる装置が普及しています。それらの大きな利点は、誰がやっても一定でムラのない乳頭洗浄ができることです。理論を知らなくても装着時間と方法を守れば、それなりの洗浄ができるということです。搾乳作業を外人研修生やアルバイトなどを利用して搾乳している農場では、特に有効だといわれています。

### 乳頭自動洗浄装置の利用



写真3

しかしながら、その装置に慢心すると酪農業界につきものの、小さくて大きな落とし穴が待っています。

### 乳頭自動洗浄装置でも 洗えてない？

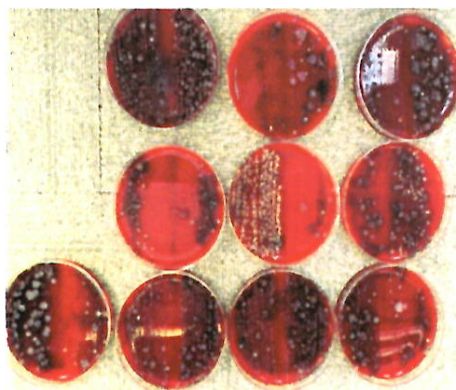
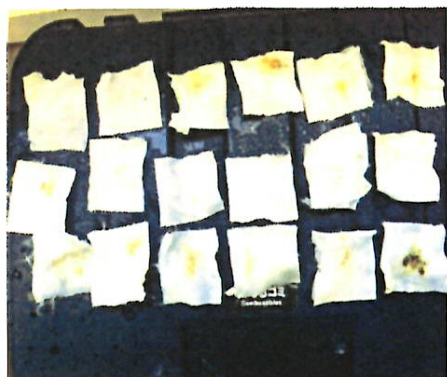


写真4

写真4はある乳頭自動洗浄装置を利用している農場での、乳頭洗浄後の乳頭口（装着直前）をアルコール綿花でふき取ったものです。高いお金をかけて設置した洗浄装置ですが、乳頭口が十分に洗浄されていないのが解ります。

乳頭口スコアがわるほど汚れがとれていない

汚れの残っている乳頭口のほとんどは、乳頭口スコアの悪いものがほとんどでした。乳頭の先がいびつになったり、ささくれたりしているためにその汚れが取れにくいということです。また、それらの乳頭口の細菌検査の結果は写真4右になります。いくら高額な装置を使っても使う側の時間や方法、あるいは乳頭スコアによって結果がことなりますので要注意です。

### 乳頭自動洗浄装置 使い方を少し 意識し洗った見たら!? 少しよくなった!?

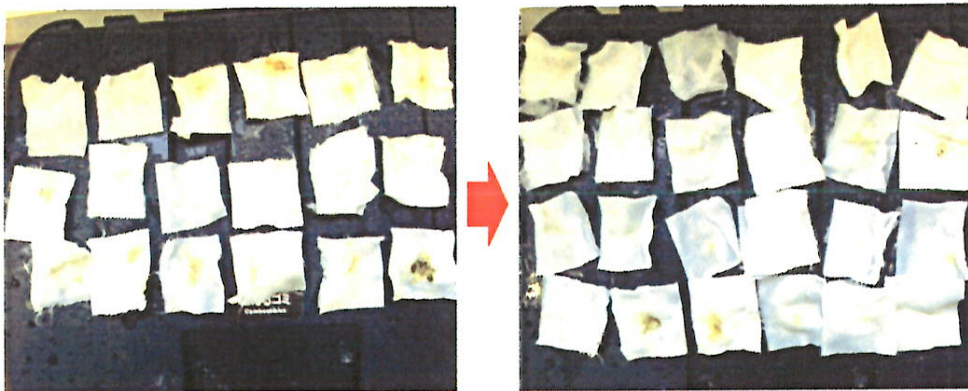


写真5

そこで、搾乳者である外国人研修生に写真4（および写真5左）の結果を見てもらい、乳頭口の衛生あるいはその先にある糞を意識して同様に洗浄してもらった結果です（写真5右）。まだ十分ではないのですが、左右では明らかな差があることはみてわかりますよね。皆さんの農場でも俗にいう、「アルメンチェック」を、一度試してみてもうどうでしょうか？ 前述、ウイスコンシンの高泌乳農場主もいっているように、「特別なことがあるわけではなく、小さい破綻を一つ一つなくしていくことが、その近道になる」ということでしょうか？

黒 崎

ロボットにもっと仕事をさせるには？

高い装置を最大限に生かすには？

自己評価としてのアルメンチェックはどうですか？